

# 講演抄録



## 講演①

### 5歳児健診再考

小枝 達也 先生 [鳥取県立総合療育センター 院長代理]

筆者は平成8年度より5歳児健診を開始し、発達障害のある子への気づきの場として、その必要性を提唱してきた。以降20数年を経て昨年の12月28日に子ども家庭庁成育局より通達が出され、1か月児健診と5歳児健診に公的な予算での補助が行われることとなった。

その通達には5歳児健診の目的として「幼児期において幼児の言語の理解能力や社会性が高まり、発達障害が認知される時期であり、保健、医療、福祉による対応の有無が、その後の成長・発達に影響を及ぼす時期である5歳児に対して健康診査を行い、こどもの特性を早期に発見し、特性に合わせた適切な支援を行うとともに、生活習慣、その他育児に関する指導を行い、もって幼児の健康の保持及び増進を図ることを目的とする。」と記載されている。

悉皆の集団健診として実施することや対象年齢は4歳6か月から5歳6か月とすること、また診察項目として、①身体発育状況、②栄養状態、③精神発達の状況 ④言語障害の有無、⑤育児上問題となる事項(生活習慣の自立、社会性の発達、しつけ、食事、事故等)、⑥その他の疾病及び異常の有無などが記載されている。

こうした通達を受けて新しい5歳児健診の形を再構築していく必要がある。

●日本小児科学会 新専門医制度 iii)小児科領域講習 1単位 ●日本医師会 生涯教育講座 1単位 が取得できます

## 講演②

### 喧嘩の達人、実は赤ちゃん～予防接種と喧嘩はお早めに～

橘家 圓太郎 師匠 [落語家]

赤ちゃんが何人かいると、おもちゃの取り合いやらで揉め始めます。誰かが泣きます。叫びます。気がつくとき笑っています。一緒に遊び始めます。一人でも楽しそうです。いつの間にやら事を丸く収めてしまうのです。赤ちゃんは仲直りの天才です。喧嘩したことで「仲直り」を学ぶのでしょうか。

昔の人間は法律に頼らず、「まあまあ・・・」と言いながら事を丸く収めていました。喧嘩上手とは仲直り上手。落語の世界にはそんな人間が次々に現れます。落語も少しは世の役に立ちます。喧嘩は人間の免疫力を高めるはずで、子供のうちに、幼児のうちに、赤ちゃんのうちに揉め事に遭遇させておくというのはどうでしょう。適切な時期の程よい喧嘩は心の免疫力を高めるはずで、適切な時期の適量のワクチン接種が身体の免疫力を高めるように。